

在セネガル日本国大使館月報

2022年2月

主な出来事

セネガル

(社会)

- 6日にヤウンデで行われた第33回アフリカネーションズカップ決勝戦にて、セネガルがエジプトをスコアレスの延長戦の末のPK戦(4-2)で破り、初優勝を飾った。セネガル選手団は、帰国後、空港から大統領府へのルートで凱旋パレードを行い、多くのダカール市民の祝福及び歓迎を受けた。(9日 Le Soleil ほか)

(外政)

- サル大統領は欧州(独、仏、白(EU・AUサミット))を訪問し、独においてはピオンテック社との協議、仏ではマリからの仏軍撤退に関する共同記者会見を行い、EU・AUサミットでは交流と共有に基づく新たなパートナーシップを築き、共通の課題に対処していく旨を述べた。(18日 Le Soleil 等)
- 24日、現アフリカ連合(AU)議長のサル大統領は、ファキ・アフリカ連合委員会(AUC)委員長と連名で、ウクライナにおける大変深刻かつ危険な情勢に極度の懸念を表し、ロシア及びその他の地域又は国際的な関係者に対し、国際法、ウクライナの領土の一体性及び国家主権を否応無しに尊重することを求める旨のコミュニケを発出した。(25日 Sud Quotidien 等)

(経済)

- 24日、サル大統領は、値上がりの傾向があるコメ、油、砂糖等の生活必需品につき、市場価格の引き下げのため補助金を投入することを閣議にて発表した。(25日 Sud Quotidien)

ガーボベルデ

- 8日、カーボベルデ視覚障害者協会とカーボベルデ日本国大使館は、カーボベルデの視覚障害者支援のための機材購入として、900万エスクード(82,381ユーロ)の資金協力契約を締結し、本式典に出席した藤井泉書記官は、持続可能な発展のためには、人間の安全保障の概念に基づいた、ひとりひとりの未知なる可能性を引き出す支援が重要である旨述べた。(8日 Inforpress)

ガンビア

- 13日、バロウ大統領は、米国から解放された奴隷グループによるリベリアへの初到着200周年記念式典に出席のため、リベリアへ外遊を行った。(14日 The Point)

ギニアビサウ

- 1日、ギニアビサウ政府庁舎が襲撃を受け、エンバロ大統領等が一時的に行方不明となったが、同日夜、エンバロ大統領は無事であることを記者会見を通じて発表した。(1・2日 O Democrata 等)

注:

- ・文中の「コロナ」とは特別な記載がない限り、「新型コロナウイルス」のことを指すこととする。
- ・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

- 1月24日のセネガル・ガンビア国境付近での戦闘によりセネガル反政府勢力 MFDC(カザマンズ民主勢力運動)に拘束されていた ECOWAS(西アフリカ諸国経済共同体)ガンビア・ミッション(ECOMIG)のセネガル人兵士7名が解放された。(14日 Jeune Afrique)
- 17日、バルテルミー・ジャス氏はダカール市長就任式において、任期中の抱負について述べると共に、サル大統領を始めとする国家機関とも協力していく姿勢を見せた。また、ハリファ・サル前ダカール市長にダカール名誉市長職を与える旨も発表した。(18日 Sud Quotidien)

(外政)

二国間関連

- ライエン欧州委員会委員長は、8日から10日にかけて、2月17-18に予定されているEU・AUサミットの準備のため、セネガルを訪問した。同委員長は、安定と繁栄の共有のために「AU議長としてのサル大統領のリーダーシップが必要不可欠」と述べ、EUの新たな投資戦略である「Global Gateway」(約3000億ユーロ)に占めるアフリカの役割等について語った。(9日 Le Soleil)
- 9日、セネガルを訪問中のライエン欧州委員会委員長、及びホットウ・セネガル経済・計画・協力大臣が、ダカール・パスツール研究所(IPD)にて、セネガル「MADIBA: Manufacturing in Africa for Diseases Immunology and Building Autonomy(当館仮訳: アフリカにおける疾患免疫及び自律性確立のためのワクチン製造)計画」の枠組みで、32億CFAフランを上回る資金協力について合意した。(10日 Le Soleil、L'Observateur 等)
- 10日、サル保健・社会活動大臣並びにゴメス当地スペイン大使が、スペイン政府が無償供与したジョンソン・アンド・ジョンソン製ワクチン302, 400回分の供与式に出席した。(11日 Le Soleil)
- サル大統領は欧州(独、仏、白(EU・AUサミット))を訪問し、独においてはビオンテック社との協議、仏ではマリからの仏軍撤退に関する共同記者会見を行い、EU・AUサミットでは交流と共有に基づく新たなパートナーシップを築き、共通の課題に対処していく旨を述べた。(18日 Le Soleil 等)
- シュタインマイヤー大統領は、独政府が支援するジャムニャジョにおけるワクチン製造施設の視察及び、ダカールのゲーテ・インスティテュート文化センターの礎石式に参加し、同じくダカール訪問中のエルドアン大統領は「セネガルとの友好関係強化を望む」とする寄稿を行い、セネガルスタジアムの落成式に参加した。(21日 Le Soleil 等)
- 24日、駐セネガル仏陸軍准将は、仏軍及び同盟軍は、アフリカの国々が望むとおり、サヘル一帯でのテロ対策に従事し続ける旨を発表した。(25日 Sud Quotidien)

国際情勢・国連機関支援

- 18日、テドロスWHO事務局長は、EU・AUサミット中の記者会見の場で、セネガルを含む6か国(チュニジア、エジプト、南ア、セネガル、ケニア)が、mRNA ワクチンの製造技術を移転するためのプログラムの拠点に選ばれたことを発表した。(19-20日 Le Soleil)
- 24日、現アフリカ連合(AU)議長のサル大統領は、ファキ・アフリカ連合委員会(AUC)委員長と連名で、ウクライナにおける大変深刻かつ危険な情勢に極度の懸念を表し、ロシア及びその他の地域又は国際的な関係者に対し、国際法、ウクライナの領土の一体性及び国家主権を否応無しに尊重すること

を求める旨のコミュニケを発出した。(25日 Sud Quotidien 等)

- チャム経済評論家は、ウクライナ情勢により、セネガルがロシアと特段大きな経済関係を持っていないとも、石油及び小麦を中心とする供給が世界的に制限されることにより、新型コロナに起因する危機を脱しつつあるセネガルにおいて更なる経済的影響を受けることは逃れられない旨述べた。(26-27日 L'Observateur)
- カメルーン北部で生じたイスラム過激派グループによる国境なき医師団5名の誘拐事案において、セネガル人が1名含まれていることが判明した。(26-27日 Le Quotidien)

日本関連

- 新井駐セネガル大使の離任に際するインタビュー(コロナ禍における活動、日セネガル外交樹立60周年、任期終了にあたっての振り返り等)(1月27日 Le Soleil)
- セック・セネガル・日本職業訓練センター(CFPT)校長がインタビューにて、CFPTを地域のハブにしたい旨述べた。(5-6日 Le Soleil)
- ダカール市のファン大学病院は、日本の支援により、一日500kgの処理能力を有する医療廃棄物用の焼却炉を配備しており、これにより病院の全ての医療廃棄物を周囲に迷惑をかけることなく焼却できる。(14日 APS等)
- 日本は教育分野でも開発協力を力を入れており、初等教育算数能力向上プロジェクト(PAAME)のフェーズ2(約8.6億FCFA)は、小学校児童の算数能力の向上と、持続可能なモデルを用いた算数教育の質の向上を目指しており、計3フェーズでセネガルの地方の小学校の生徒や教諭等多くの者が裨益予定である。(16日 Le Quotidien 等)
- 17日、日セネガル間で保健セクターレビューが行われ、保健省次官から日本のセネガルにおけるUHCの普及における貢献に対する感謝の言及のほか、中嶋臨代より、UHCに関する日本のコミットメントについて言及があった。(18日 Le Soleil 等)
- 220億FCFAに上る日本の支援のプロジェクトにより、ダカール港マリ向け貨物を取り扱う第三埠頭の改修工事が行われており、現在第二期の工事が進行中で、本年5月に完工し、これにより貨物取扱量は2018年の80万トンから120万トンまで増加する見通しである。(18日 Seneweb 等)

(経済)

- 24日、サル大統領は、値上がりの傾向があるコメ、油、砂糖等の生活必需品につき、市場価格の引き下げのため補助金を投入することを閣議にて発表した。(25日 Sud Quotidien)

(社会・スポーツ)

- 6日にヤウンデで行われた第33回アフリカネーションズカップ決勝戦にて、セネガルがエジプトをスコアレスの延長戦の末のPK戦(4-2)で破り、初優勝を飾った。セネガル選手団は、帰国後、空港から大統領府へのルートで凱旋パレードを行い、多くのダカール市民の祝福及び歓迎を受けた。(9日 Le Soleil ほか)
- 17日、セネガルオリンピック委員会(CNOSS)は、1964年東京オリンピックにてセネガル人選手として初めてオリンピックに出場したアマドゥ・ガク(元400m走世界記録保持者)等4名のスポーツ界における貢献を称える式典を開催した。(18日 Sud Quotidien 等)

- 20日、セネガル国民議会で同性愛行為を罰則化に関する法案が否決されたことに伴い、厳罰化を訴える人々が And Samm Jikko Yi 団体の呼びかけの下セネガル全土から集まり、オベリスク広場で抗議活動を行った。(21日 Sud Quotidien)
- 23日、セデュー麻薬取締部は、70キロ相当のインド大麻等を押収した。(25日 Sud Quotidien)

カーボベルデ

- 8日、カーボベルデ視覚障害者協会とカーボベルデ日本国大使館は、カーボベルデの視覚障害者支援のための機材購入として、900万エスクード(82,381ユーロ)の資金協力契約を締結し、本式典に出席した藤井泉書記官は、持続可能な発展のためには、人間の安全保障の概念に基づいた、ひとりひとりの未知なる可能性を引き出す支援が重要である旨述べた。(8日 Inforpress)

ガンビア

- 11日、ンジャイ財政・経済大臣は、USAIDを通じた200万ドル規模の Development Objective Grant Agreement (DOAG)と称するガンビア民主主義、平和、安定に関する米国の支援につき発表した。(11日 The Point)
- 13日、バロウ大統領は、米国から解放された奴隷グループによるリベリアへの初到着200周年記念式典に出席のため、リベリアへ外遊を行った。(14日 The Point)

ギニアビサウ

- 1日、ギニアビサウ政府庁舎が襲撃を受け、エンバロ大統領等が一時的に行方不明となったが、同日夜、エンバロ大統領は無事であることを記者会見を通じて発表した。(1・2日 O Democrata 等)
- 7日朝、VOA(ヴォイス・オブ・アメリカ)の子会社で、最大野党 PAIGC に近いとされ政権に批判的な姿勢を取ることで知られる民間ラジオ局 Capital Radio が襲撃され、複数名(報道により3~7名)が負傷する事件が発生した。(7日 DW、RFI、O Democrata 等)
- ギニアビサウ首都ビサウのオスワルド・ヴィエイラ国際空港で昨年10月末から留め置かれていたエアバスA340号機につき、検察による調査が打ち切られた。(8日 Radio TV Bantaba)
- 15日、ナビアム首相は、エンバロ大統領と自身の関係は良好である旨、1日の襲撃事件は独立した事象と解釈でき、同様の脅威はもはやなく、ギニアビサウには平穏が戻っている旨、ギニアビサウ軍は1日の襲撃事件には関与していない旨述べた。(15日 RFI)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)